

「北九州PCB処理事業に関する市民説明会」実施結果

北九州市環境局

1 日時・場所

- (1) 日時：平成27年1月19日（月）18：30～20：00
- (2) 場所：若松市民会館 小ホール
- (3) 参加者数：23名

2 説明会の概要

北九州PCB処理事業の進捗状況について、JESCOから、処理施設の操業状況や環境モニタリング結果に関する報告が行われた。

その後、今後の安全かつ一日も早い処理完了に向けた取組みとして、環境省及びJESCOから、今後の処理の見通しや本市の受入条件の履行状況の説明が行われ、また、本市から、これまでの取組状況と今後の処理推進の方針について説明を行った。

続いて、以上の説明内容について、参加した市民との意見交換が行われた。

3 主なやり取り

[未処理機器の把握について]

- 会場から、現時点で把握している未処理機器の数量を教えて欲しいという質問があり、
- 環境省から、今回示した処理対象量は、今年1月14日までに自治体から報告・提供のあったPCB廃棄物の保管状況を用いて推計したものであり、今後の掘り起こし調査の結果等により変わり得るとの回答があった。

[期間内での処理について]

- 会場から、今後掘り起こし調査を行うのであれば、市が目標とする平成33年度までには処理が終わらないのではないかという質問があり、
- 環境省から、これまでに実施された掘り起こし調査の知見を踏まえると、新たに見つかる可能性のある処理対象物は最大で現在の量の1割程度と考えており、平成33年度までに一日でも早く処理を終わらせるよう取り組むとの回答があった。

[安全対策について]

- 会場から、北九州の近くにも複数の断層があるが、地震対策は本当に大丈夫なのかという質問があり、
- J E S C Oから、現在想定されている最大の震度、津波高さに対し、処理施設の安全性は確保されており、今後についても、自治体の防災計画の改訂状況など最新の情報を適宜確認し、必要に応じて対応策を検討していくとの回答があった。
- また、土壌・地下水の環境モニタリングについて、頻度は年1回で大丈夫なのか、また、測定地点を固定せず変えた方が良いのではないかとこの質問に対し、
- J E S C Oから、有害物質による汚染の有無を調べるという目的に鑑み測定場所を変えることは適切ではなく、年1回の測定で十分と考えているとの回答、また、施設立地の前後で測定結果に変化はない旨の説明があった。

[その他]

- 会場から、市内にある低濃度P C B廃棄物の処理施設で処理された残渣は、どのように処分されるのかという質問があり、
- 本市から、処理で発生する残渣はすべて銑鉄の原料に使われる（リサイクルされる）ことから、最終処分されるものはないと理解している旨の回答を行った。

以上